

令和3年度教育事業
全国高校生体験活動顕彰制度
「地域探究プログラム」

オリエンテーション合宿 in 曾爾青少年自然の家
曾爾探究プロジェクト

1. ねらい

オリエンテーション合宿を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的な態度、課題に向き合う力を身につけるとともに、郷土や自然に愛着を持ち自ら行動する高校生を育成する。

2. 実施日

5月31日(月) 事前ガイダンス①
6月30日(水) 事前ガイダンス②
8月24日(火)～8月25日(水) 1泊2日
フィールドワーク、講義・演習等

3. 対象者

奈良県立添上高等学校普通科人文探究コース1年生

4. 参加者

高校生13名

5. プログラム(要約)

奈良県立添上高等学校普通科人文探究コースの生徒が、令和3年度の「地域探究プログラム」に参加し、5月に施設のある曾爾村の特徴や取組についての講義をうけ、それを参考にしてそれぞれが曾爾村で探究したいテーマ設定をした。

8月に自然の家に宿泊し、それぞれの探究テーマに沿ったフィールドワークを行った。参加者たちはこの合宿で得たノウハウを基に実践活動を重ねていく。

スケジュール

5月31日(月)
事前ガイダンス

6月30日(水)
事前質問会

8月24日(火)
・入所オリエンテーション
・フィールドワーク①
・講義演習①「地域理解」
・講義演習②「課題解決の基礎」

8月25日(水)
・フィールドワーク②
・講義演習③「地域課題の探究」
・発表①
・講義演習④「行動計画の基礎」
・発表②

事前ガイダンス

5月31日(月)に、奈良県立添上高等学校にて本事業のための事前ガイダンスを実施し、担当者から本事業のねらいや全体の流れ、探究活動のプロセスについて説明を行った。

次に、曾爾村企画課主任の高松和弘氏から曾爾村についての紹介と、現在取り組んでいる活動について説明があり、その後生徒との質疑応答の時間を設けた。生徒たちは、自分の探究テーマを決定するため、様々な視点から質問をしていた。なお、この日に十分な時間が取れなかったことと、生徒からの要望があったこともあり、6月30日(水)に探究テーマの決定に向けた事前ガイダンスの時間を追加で設けた。



フィールドワーク、講義・演習等

8月24日(火)から25日(水)にかけて、自然の家に宿泊し、個々が設定した探究テーマに応じて「特産・伝統」「観光・宿泊」「移住・PR」の3つのコースに分かれて、曾爾村内各地に赴きフィールドワークを行った。

初日のフィールドワークでは曾爾村において行われている活動の紹介や、課題点などについて説明があった。

「特産・伝統コース」の生徒たちは、トマト農家、ほうれん草農家、米農家の方から曾爾村の特産品についての話を聞き、午後からは曾爾村の祭りや獅子舞に関わる人たちの話を聞いた。「観光・宿泊コース」の生徒たちは、曾爾村観光公社「そののわ GLOCAL」の協力のもと、村内にある観光地や施設、民宿等を巡り、曾爾村の観光資源やそれを活かすための取組について学んだ。「移住・PRコース」の生徒たちは、曾爾村企画課や地域おこし協力隊の協力のもと、売り出している空き家を見学しながら曾爾村が行っている移住促進のための取組を聞いた。

生徒たちは1日目の夜の講義の時間を使って、フィールドワーク先で得た情報を基に自分たちなりの改善案を考え、翌日のフィールドワークで発表できるよう協議を重ねた。



2日目のフィールドワークでは前日と同じ場所を再び巡りながら、自分たちが考えた「地域をよりよくするためのアイデア」を発表した。生徒たちはフィールドワークに協力していただいた方々から、それらのアイデアに対する評価や、実際に行う際に課題となることなどを指摘してもらうことで、自分たちが考えた解決策をさらに具体的にするためにはどうしたらよいかを考えることができ、探究活動が深まる様子が伺えた。

自然の家に戻ってからは、グループごとにフィールドワークで見学してきたことや、課題に対する改善案、2回目のフィールドワークを受けてそれをさらに具体的にする方策等について発表する時間を設けた。それぞれのグループで得た学びを全体で共有することで、各々が今後の探究活動をする上での参考になったようであった。



6. まとめ

今回のオリエンテーション合宿を開催するにあたり、曾爾村で暮らす多くの方々にご協力をいただいたおかげで、実りあるフィールドワークを行うことができた。

生徒たちからは「2日目のフィールドワークで、1日目の夜に考えた提案を発表して、良いところや見直すべきところを聞いたので、そこから自分たちでさらに深めていくことができた」「フィールドワークで曾爾村の方々のお話を聞いて、抱える課題は様々でも、曾爾村をより良くしていきたいという思いはみんな同じなんだと思った」といった感想を聞くことが出来た。

生徒たちは、今回の曾爾村での探究活動のプロセスを基盤に、次は自分たちが暮らす地域を題材として探究活動をさらに深めていくことになる。その際に、曾爾村での探究活動が活かされていくことを期待したい。

(企画指導専門職 山内 康平)